

2023年 9月の行事予定表

1	金		16	土	
2	土		17	日	礼拝式（塩崎師・水島教会） 地区聖会（広島教会）第一回
3	日	礼拝式・聖餐式（永松師）	18	月	// 第二回
4	月		19	火	
5	火		20	水	
6	水		21	木	祈禱会
7	木	祈禱会	22	金	
8	金		23	土	秋分の日
9	土		24	日	礼拝式（奨励：Y兄）
10	日	礼拝式（奨励）・長寿を祝う会	25	月	
11	月		26	火	
12	火		27	水	
13	水		28	木	祈禱会（月報印刷と発送）
14	木	祈禱会	29	金	
15	金		30	土	

9月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。（敬称略）

編集後記

- ◇ 今月号は、故K兄姉の納骨式と3人の方の証しをお送りします。
- ◇ 2月13日のK姉の召天の知らせは本当に驚き悲しみを覚えました。4月の教会員有志の訪問の後、6月11日にご主人が突然礼拝にみえ「これから教会に通います」と挨拶されたことは、更に大きな驚きでまた喜びでした。K姉の願いが通じたと感謝しました。それから間もなく6月13日の召天でした。まるでこの時のために、神様の御手が細い糸を繋ぎ合わせ紡がれたのだと思えてなりません。
- ◇ 月報3月号6月号そして今号を並べてみてください。遠方からですが、今月号を編集できた幸せを感じています。

岡山ナザレン教会ホームページ <http://nazaren.a.la9.jp>
～過去の月報も見られます～

教会月報 2023年 9月
No.388

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

神の国の入場券

イエスに触れていただくために、人々は乳飲み子までも連れて来た。弟子たちは、これを見て叱った。しかしイエスは乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」 ルカ福音書 18:15～17

神の国に入る資格とは、どのようなものでしょうか？イエス様はこう宣言しておられます。「子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

純真無垢で罪がない、天使のような人にならないと、天の国には入れないということなのでしょう。そうではありません。子どもは体も心も未熟ですから、自分だけの知恵や力で生きていくことはできません。弱くて不完全な自分を知っていて、だからこそ神様の愛と力に信頼して、自分を丸ごと神様に預けて生きようとする人。それが、イエス様が言われる「子どものよう」な人です。

そしてイエス様は「神の国に受け入れられる人」ではなくて、「神の国を受け入れる人」と言っておられます。自分たちの理想も価値観もはるかに超えて、神様の愛と正義がすべての人を生かす神の国を、あなたは受け入れるか？そう私たちに突きつける御方、すべての人を救うために来られたイエス様こそが、一人一人に差し出された「神の国の入場券」なのです。

野村 友美牧師(呉教会)～ 岡山教会8月20日礼拝説教要旨

～写真は、礼拝後の野村先生と永松先生。この日も猛暑。教会でよく聞く「子どものよう」とはどのような人か、わかりやすく語っていただきました。



故 Y 兄、R 姉 納骨式

Y 兄: 召天日 2023 年 6 月 13 日 89 歳

R 姉: 召天日 2023 年 2 月 13 日 83 歳

8月4日(金)午前10時より、教会堂にご遺族(三名の娘さん)が集われ、永松清牧師の司式により、納骨式が執り行われました。聖書 I テサロニケ 4 章 13~17 節から「神の時」と題して永松先生からお話があり、故人を偲びつつ新聖歌から賛美しました。その後、教会第二墓地に納骨されました。

7月23日礼拝証し SK兄

私の普段の生活をお話しますと、朝の5時半に家の前の運動公園に向かいます。多くの方がラジオ体操のために集まって来られますが、その中で50代と思われる男性が80歳手前のお母さんと一緒に来られます。足が多少不自由なお母さんに朝4時に電話してお迎えに行く息子さんに対して、そのお母さんは「メイワクです」とおっしゃってましたが、その言葉は柔らかく、それを聞く息子さんも笑っておられました。私にはこの息子さんがイエス様のように思えました。私たちは自分の力で歩いているような気になっていますが、助けが無いと歩けません。毎朝お母さんを見守っておられる息子さんの姿にイエス様を思い、その恵みをこの親子の姿をみて気付かせていただきました。

また、以前にもお話した「日毎の糧」の聖句をもう一度噛み締めるために清書していることでいい学びが続けられています。最初は日めくりカレンダーの聖句を清書していたのですが、その後「日毎の糧」の資料を永松師に教えて頂き、それを清書させて頂いています。

最近歯の調子が良くないなど年齢のせいかな体調の変化を感じています。後期高齢者となりましたが、その保険証の裏側に臓器移植の意思表示欄があります。私の母は亡くなった時に解剖のため大学病院に提供するという意思を表明しており、その遺体を葬儀の後に担当者の方が引き取られました。大学から詳しく遺体の状況を教えて頂きました。私も母に倣って臓器提供を行いたいと思います。

夏休みに入ってラジオ体操のために来る子供たちと再会することが出来ました。その成長に本当に驚かされます。私たちの信仰も成長することが出来るように一步一步進んでいけるように願っています。



証し

J.S.師 ファミリー

皆様のご支援とご祈禱ありがとうございました。神の時は私たちの時と同じではありません。未来がわからなくても神の時は最高です。

去る4月に岡山に到着した時は、早く家族を連れて来たかったです。岡山事務所出入国在留管理局への書類の手続きを進めました。多くの方はこの手順に3週間しかかかりません。私は3週間、4週間、5週間、6週間、10週間待っていましたが連絡はありませんでした。

インドネシアや日本の多くの方々が私たちのために祈ってくださっていることを心強く思います。

3ヶ月(編注:約12週間)ほど待った後、ようやく広島入国管理局から家族の在留資格認定証明書が届きました。神が私たちの周りにたくさんの親切な人々を送ってくださっていることにとっても感謝しています。

今、私たちはここ岡山で新しい生活を始めています。日本でもイエス・キリストと共に信仰をもって歩み続けたいです。私たちの人生が彼を賛美しますように。皆さまのご支援とお祈りに感謝します。神が皆さまを豊かに祝福してくださいように。アーメン。

イザヤ書41:10 『恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。』

原稿募集!

これまでの人生や教会の歩みで、「神様の御手」「神様の加護」を実感されたことを分かち合いたいと思います。原稿は800字以内、締切日は2023年度内の毎月20日です。 月報編集委員

時を与えられて

I.S.姉

この夏は私にとって大きな人生の節目になりました。今まで病らしい病ははしたことがなかったのですが、思いがけず手術と入院を体験することになったのです。

はじまりは今年の1月頃に周囲が見えにくくなっているように感じられたことでした。近くの眼科に行ったところすぐに診断がつき経過観察となりましたが、症状が進み、紹介で大きな病院に手術の相談に行ったのは今年の7月です。ところが病院では、見えにくくて困っていても「今のままでも生活はできますし、コロナのこともありますから、手術は見合わせましょう」と医師に言われたのです。私はその時「不便なまま症状が進んでいくのか」と戸惑いました。こうして再び経過観察となり祈りながら過ごす中で、今年の3月に久しぶりに夜間の運転をしたところ、暗がりであり見えていないことに気がきました。もうこれ以上は待てないと思い、やっと紹介状をもらって手術の相談ということで再び病院受診ができたのは6月でした。

今年のことがあったので、挑むような気持ちで病院に行きました。ところが行ってみると前回と違う医師がはじめから手術前提で対応してくれたのです。「入院」と言われ戸惑いましたが、通常の日帰り手術のようにはいかないこと、入院前に別な日帰り手術もすることなど丁寧な説明を受けました。それまで不便が重なっていく日々のなかで不安や焦りは確かにあったのですが、手術の危険について説明を受けても心騒ぐことなくむしろ安心をおぼえたのは、主が常に守ってくださるのを感じたからです。同時に「今がそなえられていた時」という気持ちが強くわきあがってきました。体にメスを入れるということは大変なことだということも改めて感じましたが、兄弟姉妹の祈りと主に支えられて、回復は順調で、眼鏡がなくても生活ができるようになりました。今はすべてに感謝の日々です。 「すべてのわざには時がある コヘレトの言葉」



奥様と二人のお子さんと共に
シンガポール空港にて